

本願寺新報

hongwanji journal

6月5日(木曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺)
〒600-8501 本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) / FAX 075(341)7753

号外

第24代即如ご門主が「ご消息」

6月5日、御影堂で行われた「御消息発布式」で第24代即如ご門主が「退任に際しての消息」を發布された。即如ご門主は昭和52年に法統を継承されて以来、37年にわたり「門主」を務められた。本日夕刻には「御譲渡式」が行われ、明6日には専如新門さまが第25代門主に就任され、即如ご門主は「前門」となられる。
(「ご消息」とはお手紙のこと。特に浄土真宗では、さまざまな縁に際して、歴代の宗主が、そのおこころを広く伝えるために出される書簡をいう)

退任に際しての消息

本日、平成二十六年六月五日をもって、私は本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主を退任し、後を本願寺嗣法・新門に託すことにいたしました。

昭和五十二年四月一日、法統を継承して以来、三十七年二か月になります。至らぬことが多々あった中、今日まで務めることができましたのは、仏祖のご加護は申すまでもなく、宗門内外の方々のご支援、ご理解とご協力のお蔭であります。皆様に、心より感謝申し上げます。

この間、本願寺では、阿弥陀堂の修復、顕如上人四百回忌、蓮如上人五百回遠忌、御影堂の修復、宗祖聖人七百五十回大遠忌等の縁を皆様とともにすることができました。さらに、北境内地を取得できたお蔭で、活動をより広く展開できるようになりました。また、宗門では基幹運動の推進とともに、さまざまな活動や事業がありました。世界各地にも、お念仏の輪が広がっています。それらを、巡教などによって身近に知り、御同朋の思いを確かめることができましたこと、まことに有り難く思います。

この三十七年間は勝如前門主の戦争を挟んだ激変の五十年に比べれば、やや穏やかとも言える時代でしたが、国内では大小の天災・人災が相次ぎ、経済価値が優先された結果、心の問題も深刻化しました。世界では、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、深刻なあるいは人類の生存に関わる課題が露わになりました。その中で、心残りは、浄土真宗に生きる私たちが十分に力を発揮できたとは言えないことです。

私たちの宗門は、門信徒一人ひとりに、み教えが受け継がれるという素晴らしい伝統をもっています。これからも、社会の変動の中において、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し、各人、各世代、それぞれの個性と条件を活かし、特に若い世代の感性と実行力を尊重して、一人でも多くの方を朋とし、御同朋の社会をめざして歩むことができるよう願っております。

後を継ぎます新門主は、築地本願寺で五年九か月の間、副住職を務めて経験を積み見聞を広めています。今後は、法統を護るとともに、宗門全体を思い、広く宗教界を視野に入れて、務めることとなります。皆様の一層のご支援をお願いいたします。

なお、私は、七十歳まであと一年余りとなりました。先のごことは予測できませんが、阿弥陀如来の揺るぎない本願力の中に、宗祖聖人のみ教えを仰ぎ、浄土真宗の僧侶としての務めを、できる限り果たしたいと思っております。

平成二十六年
二〇一四年
六月五日

龍谷門主 釋 即如